

## 土木図書館の現況と今後について

### 土木図書館運営小委員会

昭和 39 年 2 月学会内に常設された土木図書館運営委員会は、昭和 40 年 1 月図書館業務開始後 3 年目で、初期の目的であった土木図書館整備計画を達成し、その運営も軌道に乗ったため、本年春に解散致しました。今後の定常的な運営と図書の実用を計るために、新たに図書館運営小委員会を文献調査委員会の下に設置しました。

土木図書館運営委員会のこれまでの活動を振り返ってみますと、昭和 39 年 9 月に土木図書館整備計画の決定、以来現在まで、土木工学関係の国内外雑誌、国内外単行本、官公庁刊行物、国際会議論文集、建設関係新聞、フィルムライブラリーなどの選定収集を行なって参りました。

業績としては、土木図書館規程、土木図書館利用規定、フィルム貸出規程、図書分類項目の作成、雑誌・単行本等の収集・整備、所蔵目録の作成、および複写設備（エレファックス）の備付けなどが主なものです。

現在土木図書館の蔵書台帳登記冊数は 8 900 冊に及んでいます。蔵書の内容は土木図書館所蔵目録 1 巻および 2 巻をご覧になれば分ります。土木図書館で毎日行なっている入館者調査によりますと、多読書の順位は、和書では学会関係誌、雑誌、専門単行本の順で、洋書では雑誌、国際会議論文集、専門単行本の順になっています。

昭和 42 年の 10～11 月の間入館利用者に対して行なった「土木図書館の利用についてのアンケート」の集計結果は土木図書館の利用状況を知る上で参考になりますのでお知らせ致します。これは入館者 100 名について行なったものです。

#### 土木図書館入館利用者に対するアンケート集計結果

- 1) 会員種別  
正会員：41、学生会員：32、特別会員：9、非会員 16
- 2) 利用者の年齢  
20 才代：65、30 才代：14、40 才代：11、50 才代：3、60 才以上：5、20 才未満：2
- 3) 利用者の所属  
教育研究機関：5、官公庁（公団を含む）：13、民間会社：38、学生：40、その他：2
- 4) 利用者の仕事  
調査研究：20、計画：10、設計施工：25、管理：4、学校：4、その他：3
- 5) 土木図書館の存在を何で知ったか。

学会刊行物：52、人に聞いて：44

- 6) いままで何回利用したか。  
初めて：48、1 回：3、2 回：10、3 回：9、4 回：2、5 回：9、6 回以上：19
- 7) 閲覧時間について（現行 9：30～16：30）  
長い：0、普通：65、短い：34
- 8) 土木図書館は利用しやすいか  
よい：51、普通：47、悪い：1
- 9) 利用目的  
自分の勉強のため：35、企画上の文献調査：16、設計資料調査：32、施工上の資料調査：8、研究：24、新技術開発：7、新着雑誌をみるため：8、その他：5
- 10) 収集希望図書  
教科書：8、雑誌：29、設計工事報告：44、研究報告（学会、国際会議等）：53、基準・規格・示方書等：13、ハンドブック類：6、その他：3

その他収集希望図書名の具体的な記入、土木図書館に対する意見・要望などを記入して載せました。

このアンケートの集計結果からみますと、正会員、学生会員で 20～30 才代の人が多いようです。所属別では民間会社、学生の方々の利用が多く、仕事別では調査研究、設計・施工関係の仕事にたずさわっている人が多い、などです。また収集希望図書としては内外の設計・工事報告書、雑誌および国際会議論文集などのバックナンバーをそろえて欲しいなどの意見が見うけられました。本年度は、これらのアンケートの結果も考慮して図書の整備、運営に当る予定です。

つぎに今後の課題について展望してみますと、近年、図書館は資料センター、情報センターとしての機能が要求されるようになり、そのためには一般に行なわれている新着雑誌の展示、閲覧、複写などのサービスの他にリファレンスサービスといった特定の主題についてどのような文献があるか、特定主題に関して過去にどのような文献がでているか、すでに以前にその文献をどこかで読んだ記憶がある、またはその文献について人から聞いた、求める文献の内容を漠然としか知らない場合、などに答えるサービスが必要になってくる。これに対処するにはコンテンツシートサービス、抄録誌・目録・索引誌・書誌などの二次資料の作成・整備、他機関との相互貸借、特定の主題または専門分野の資料をどこの図書館が備えているかを示すユニオンリストの作成、などが考えられ

ます。

また科学技術の分野での研究開発において、だれが、どこで、何を研究しているのかの情報を up to date に知らせる機能をもつクリアリングハウスの性格も要求されてくると思われます。その他、増大する文献を収容する書庫のスペースと関連してマイクロフィルム化の問題、翻訳サービス、入手困難な文献の複写による収集、などが今後および将来の課題として考えられます。

これらの課題は、現在の土木図書館の性格、予算、担当職員の数などからみて一朝一夕に解決することは困難ですので、とりあえず実行可能な分野のみ実行に移す予

定です。そのため本年度は、内外の二次資料を整備してリファレンスコーナーを閲覧室の一面に設置する、入館利用者に対してリファレンスの記録をとる。他の図書館との連携強化、他の関連機関の所蔵目録を収集する。新着図書リストを閲覧室に置く、などについて行なう予定です。もちろん本来の目的である図書の充実には一層力を入れ、より良い専門図書館を目指して運営に当りますので、今後とも会員各位のご指導、ご支援をお願いいたします。

【園田桂一・記】

海外ニュース

アメリカの揚水発電

Proc. ASCE, Vol. 94, No. PO 1, pp. 85-104, May. 1968

アメリカにおいてもピーク発電のための揚水発電所がさかんに計画、建設されている。

1961年までに建設された揚水発電所は4ヵ所にすぎず、いずれも小規模で、最大のものでも T.V.A. の Hiwassee の 59.5 MW であった。

以来、過去7年間に主なもので6ヵ所の揚水発電所が完成し、運転されている。その規模は 132 MW~800 MW と大きくなり、合計で 2160 MW に達している。

現在建設中の主なものは7ヵ所あり、その規模は 160 MW~610 MW、合計 2669 MW である。

建設を申請中のものは 10ヵ所、その規模は 122 MW~2000 MW、合計 7488 MW に達する。

これら既設、計画中の揚水発電所の総出力は 12000 MW 以上になる。

小まわりのきかない大規模な原子力、火力発電所が建設されるにつれ、その余剰時の電力を利用し、揚水、貯水しピーク需要に備える揚水発電所の建設は今後も続く傾向にある。

アメリカの主な揚水発電所

計 画 名 発 電 所 名	州	出 力 (MW)
運 転 中 の も の		
Lewiston	New York	240
Taum Sauk	Missouri	350
Smith Mountain	Virginia	132
Yards Creek	New Jersey	338
Cabin Creek	Colorado	300
Muddy Run	Pennsylvania	800
建 設 中 の も の		
Oroville-Tbermalito	California	375
Salina	Oklahoma	520
Jocassee	South Carolina	610
Carters	Georgia	250
San Luis	California	424
Kaysinger Bluff	Missouri	160
Kinzua	Pennsylvania	330
建 設 申 請 中 の も の		
Rowlesburg	West Virginia	525
Cornwall	New York	2000
Northfield Mtn.	Massachusetts	1000
Blue Ridge	Virginia	900
Laurens Shoals	Georgia	216
Montezuma	Arizona	500
Longwood	New Jersey	122
Castaic	California	1200
Blair Mountain	Colorado	525
Merrill Lake	Washington	500
総 計		12317

(白砂 孝夫)

土木図書館蔵書目録 第1集・第2集

先に創立 50 周年記念事業の一環として建設されました土木図書館の蔵書目録 第1集・第2集 が土木図書館運営委員会の協力を得て刊行されておりますのでご利用下さい。

内 容：図書館規程/同利用規定/分類記号/和書/洋書/国際会議論文集/雑誌/土木図書館フィルムライブラリー  
 体 裁：第1集 A5判 タイプ印刷 236 ページ 第2集 タイプ印刷 71 ページ  
 定 価： 700 円 会員特価：600 円 200 円 会員特価：150 円  
 送 料： 100 円 50 円